

# 新丸山ダムを生かした地域振興

土本 乃愛

中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所 調査課 (〒505-0301 岐阜県八百津町八百津3351)

新丸山ダム工事事務所(以下「当事務所」という)では、木曽川本川中流域に位置する丸山ダム下流47.5mの位置に20.2m嵩上げして機能アップを図る再開発事業を実施している。

ダム特有の魅力を持つ工事事務所だからこそできる地域振興があると考え、新丸山ダム建設事業を地域振興に活用していこうと「新丸山ダム水源地域協議会」(以下「協議会」という)を設立し、工事だけでなく地域振興にも力を入れ取り組んでいる。新丸山ダム完成後のダム周辺地域が主となった更なる地域の魅力向上、持続可能な地域振興に向けた取り組みについて報告する。

キーワード 新丸山ダム水源地域協議会, ダム周辺地域, 地域振興, アクションプラン

## 1. 新丸ダム建設事業

令和3年からダム本体工事に着手し、日々変化を見せる現場である。新丸山ダム建設事業は、丸山ダムを嵩上げる再開発事業であり、洪水調節機能の強化、流水の正常な機能の維持、発電の強化の3つの目的で行っている。ダム本体及び付替道路工事の関係市町は、瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町(以下「ダム周辺地域」という)の2市2町である。

ダム周辺地域が面する木曽川は、長野県の鉢盛山を源として、濃尾平野を流れ伊勢湾に注ぐ、我が国有数の大河川である。そして、長野県、岐阜県、愛知県、三重県を貫流し、肥沃な土壌と水の恵みを与えている。このように、人々の生活を豊かにする上で欠かせない木曽川だが、丸山ダムが既に運用されていた、1983(昭和58)年9月に戦後最大規模の洪水により、岐阜県内では美濃加茂市等において4588戸が浸水するなど甚大な被害が発生した。この災害を契機として、新丸山ダム建設による洪水調節機能の強化が強く望まれるようになった(図-1)。

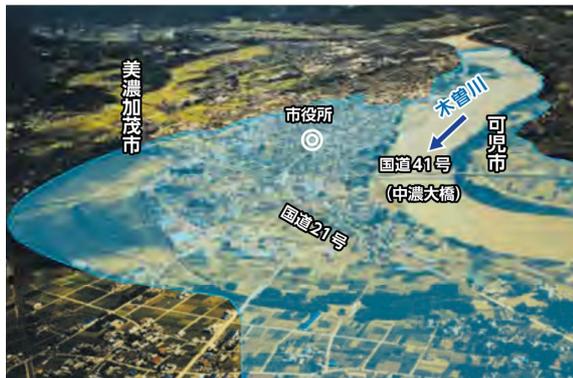


図-1 昭和58年9月28日豪雨災害<sup>1)</sup>

## 2. 地域の現状と環境の変化

ダム周辺地域の現状や取り巻く環境の変化は以下のとおりである。

### (1) ダム周辺地域の現状

我が国の人口は減少傾向にあり、ダム周辺地域においても人口減少、生産年齢人口の更なる減少が懸念されている。2015年から2045年の30年間でダム周辺地域は、総人口でマイナス34%、生産年齢人口でマイナス45%と推計されている(図-2)。これは、全国及び岐阜県の傾向に比べると減少率が大きくなっている。

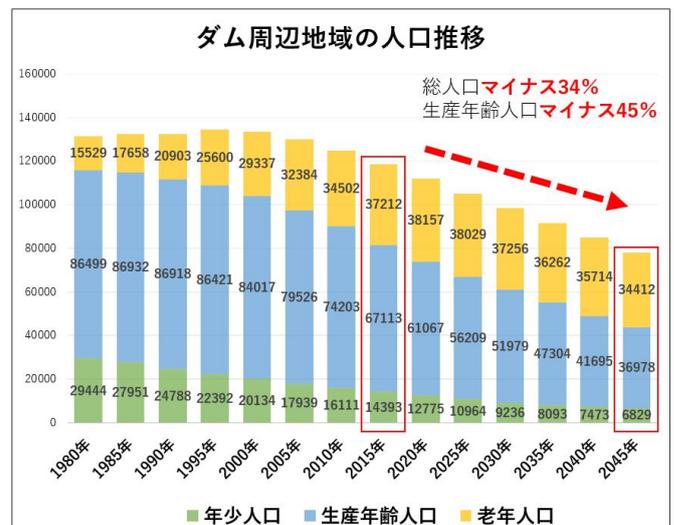


図-2 ダム周辺地域の生産年齢人口推移<sup>2)</sup>

## (2) ダム周辺地域を取り巻く環境の変化

新丸山ダム建設事業に伴い、国道418号及び県道大西瑞浪線が水没することから、瑞浪市、恵那市、八百津町において付替道路工事を行っている。現在は付替国道418号の一部区間が供用開始されている。全線開通すると、八百津町から恵那市飯地町までの所要時間が約75分から約35分に大幅短縮され、安全性・アクセス性が向上するほか、八百津町と瑞浪市をつなぐ五月橋架替えに伴う道路整備も行い、ダム周辺地域からは付替道路による地域活性化に期待が寄せられている（図-3）。

新丸山ダム建設事業のほか、恵那市が隣接する中津川市にはリニア中央新幹線の駅が計画されており、交通ネットワークの更なる強化が期待されている。



図-3 付替国道418号の整備状況<sup>1)</sup>

## 3. 新丸山ダム水源地域協議会

ダム周辺地域における、自然や文化、伝統等の地域資源とともに新丸山ダム建設に伴う基盤整備を活用し、ダム周辺地域の振興につなげるため、「新丸山ダム水源地域協議会」を設立し、関係者で取り組みを行っている。

### (1) 協議会の設立

2017（平成29）年8月に瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町と新丸山ダム関係機関（関西電力株式会社及び国土交通省木曾川水系ダム統合管理事務所、新丸山ダム工事事務所）で構成される協議会を設立し、2023（令和5）年3月に「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」をとりまとめた（図-4）。

新丸山ダム周辺地域振興ビジョンは、様々な主体と幅広い分野において連携を図り、ダム周辺地域の魅力や地域の満足度を継続的に高める地域振興について中長期的、広域的な視点に立って、社会の変化や地域の特徴を分析し、基本的な考え方をまとめたものである。

新丸山ダム周辺地域振興ビジョンをとりまとめ以降は、ダム周辺地域の地域振興の実現に向けて、ダム周辺地域や地域の事業者等の取り組みを意識し、総合的な効果が発揮されるよう、様々な主体と横断的に連携して地域振

興を進めることを目的に協議会を毎年開催しており、地域振興の取組状況の共有を行い、地域振興に資する効果的な施策を検討している。

### (2) ワーキンググループ

協議会の下部組織、協議会会員のサポーターとしてワーキンググループ（以下「WG」という）が組織され、年3回程度会議を開催している。WGでは、今年度の各市町のイベント情報や地域の観光状況などの情報共有を行い、アクションプランの立案、実行等について話し合っている。

協議会を含め、地域の垣根を超えた交流は簡単なものではない。しかし、交流の場の有無は大きな違いである。定期的に情報共有を行うことで、何が必要なか明確になり、対応の迅速さにもつながる。WGは地域の魅力向上を行っていく上で欠かせないものとなっている。



図-4 新丸山ダム周辺地域振興ビジョン（パンフレット）<sup>3)</sup>

## 4. アクションプラン実行

新丸山ダム周辺地域振興ビジョン（図-5）に基づき、具体的な地域振興の施策を「魅力をつなぐプロジェクト」としてとりまとめ、アクションプランを実行している。

地域の魅力の更なる向上を目的として、グルメプロジェクト、自然アクティビティプロジェクトでは、ダム周辺地域でのイベントに協議会として出店、インバウンド観光も見据えたダム周辺地域を周遊するダムツアーのモデルコースの作成、八百津町と学官連携をしている「名古屋造形大学」にデザインを依頼し協議会ロゴマークの選定(図-6)、防災教育の推進など、様々な取り組みを行ってきた。各市町や新丸山ダム建設事業の関係機関が協力し合うからこそ形にできるものも多く、協議会を通じた連携の必要性に改めて気づくことができる。

魅力をつなぐプロジェクト		
2市2町と新丸山ダム関係機関が連携して取り組みを加進化させる具体的な地域振興策を「魅力をつなぐプロジェクト」として取りまとめます。		
<b>ココダケグルメプロジェクト</b> (グルメプロジェクト) <b>方針</b> 特色のある地域の食文化や特産品を掘り起こし、広め、どこか懐かし(おばあちゃんの味を思い出すような、地域内外の人が楽しめる)プロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① 地域の特産品の掘起こし ② 食べ比べセットの開発 ③ 食のイベントの開催	<b>筋内・脂助燃焼 体に優しいプロジェクト</b> (自然アクティビティプロジェクト) <b>方針</b> 地域固有の自然が満喫でき、地形や施設を活かしたアクティビティやキャンプの企画・開発により、心身ともにリフレッシュできるような楽し(運動不足を解消できる)プロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① 自然の満喫計画 ② アクティビティイベントの企画 ③ 地域特有のキャンプの企画 ④ アクティビティの計画	<b>今昔プロジェクト</b> (歴史文化プロジェクト) <b>方針</b> 大人の社会見学をテーマに、地域固有の歴史・文化を巡り、地域の今と昔を学ぶことで、一層地域(城跡・歌舞伎・宿場町等)への理解が深まるプロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① 地歌舞伎、伝統芸能の交流イベント実施 ② 中山道宿場町巡り ③ 城・城跡巡り ④ 地域文化の体験 ⑤ 軽装・字びの体験
<b>ダムマスターになれる!?プロジェクト</b> (防災プロジェクト) <b>方針</b> 新丸山ダム・丸山ダムを始めとする数多くのダムがあるこの地域で、ダムを知り、地域の特徴を知ること、ダムについて身近に感じてもらう、多くの人に「防災・減災」を知ってもらうプロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① 災害に強いまちづくりの学ぶ場作り ② ダムの見学ツアーの企画	<b>バス(る)プロジェクト</b> (情報発信プロジェクト①) <b>方針</b> ダムや周辺地域の整備事業、地域の魅力について、SNSを始めとする情報発信により拡散し、バスらせるプロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① SNSの活用や発信 ② オンライン観光の推進 ③ パンフレット配布とタクシー等での連携	<b>ポイントゲッターだぜ〜プロジェクト</b> (情報発信プロジェクト②) <b>方針</b> 地域のポイントやクーポン等発行し、お得に地域を観光できたり、2市2町を周遊して様々な場所に来訪し、滞在時間が延びることで、2市2町で経済が回るプロジェクト。 <b>プロジェクト内容(案)</b> ① スタンプラリーの開発 ② 共通クーポンの発行 ③ ゆるキャラのコラボ

図-5 新丸山ダム周辺地域振興ビジョン(パンフレット)<sup>3)</sup>



考案されたロゴマーク全23案



新丸山ダム水源地域協議会

図-6 新丸山ダム水源地域協議会ロゴマーク

## 5. 地域振興のこれまでの成果

ダム周辺地域とダム関係機関が魅力ある地域資源を共有し、地域全体の満足度を向上させるとともに、新たな来訪者や移住者による地域や地域の人々に関わる人口を増やし持続的な地域経済の好循環を生み出すため、地域振興は以下の3つを軸に取り組んでいる(図-7)。

1. 資源を磨き、発掘し、つなげる(魅力を高める)
2. 来訪者や関係人口を増やす(人を集める)
3. 地域経済の好循環を生み出す(消費の活性化)

これらは、ダム周辺地域の貴重な文化や伝統など多様

な資源を関係機関が共有し、支え合い高め合うことを示している。そして、新丸山ダムを一つの新たな財産とした、ダム周辺地域が主となった地域振興を目指おり、現在まで、地域の魅力向上のため、様々なプロジェクトを実施してきた。

次に主な実施内容と課題について述べる。

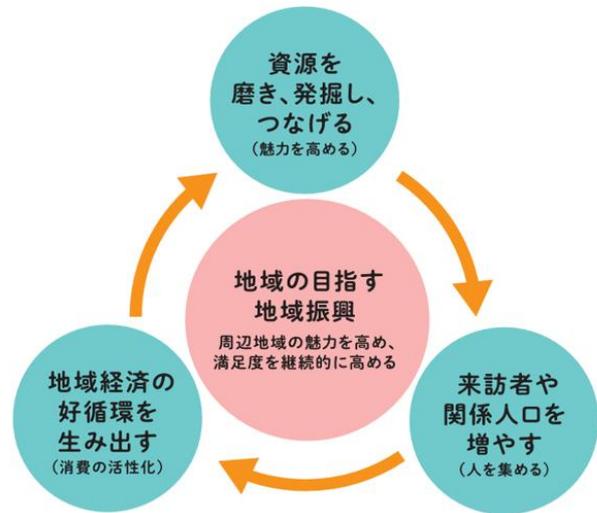


図-7 目指す地域振興<sup>3)</sup>

### (1) グルメプロジェクト

グルメプロジェクトは、特色ある食文化や特産品を広め、地域内外の人が楽しめることを目的として行っている。

これまで、ダム周辺地域を周遊できる「新丸山ダム水源地域観光MAP」(以下「観光マップ」という)の作成などの取り組みを実施してきた(図-8)。市町で連携することで、今までよりも地域の魅力を広める機会が増え、多くの方に知ってもらうきっかけとなっている。

そのほか、魅力を広める機会のひとつとして、イベントへの参加を行っている。協議会を通じることで、周辺自治体が他の自治体主催のイベントに出店することができた。併せて、協議会事務局のブースも設置し、新丸山ダム建設事業やダム周辺地域のPRを行うことでダム周辺地域やダム事業について知ってもらう良い機会となった(図-9)。実際に出店した方からは、「他の地域の方々にお店のPRができた」「普段と異なるお客さんを対象としたことで、販売方法について改善点の発見につながった」「出店できて感謝している」など嬉しい意見を聞くことができた。この取り組みは、情報発信や繋がりを広げる場となっている。

また、ダム周辺地域を周遊できるマップは最新情報を心がけ、更新を適宜行っている。新丸山ダム建設事業の見学へ訪れた方に配布も行っており、観光やお土産の情報のほか、また訪れたいと思ってもらう一助になることを期待している。

ダム本体へのコンクリート打設が始まった新丸山ダム

への見学者数は近年増加傾向にあり（図-10），今後も観光マップが多くの人目に触れるようになると考えられる。また，当事務所は勿論，令和6年度から丸山ダム管理支所Webサイトからも観光マップへアクセスできるようにするなど，多くの方に見てもらえるよう工夫を行っている。



図-8 新丸山ダム水源地域観光MAP<sup>4)</sup>



図-9 イベントに設置した協議会事務局ブース

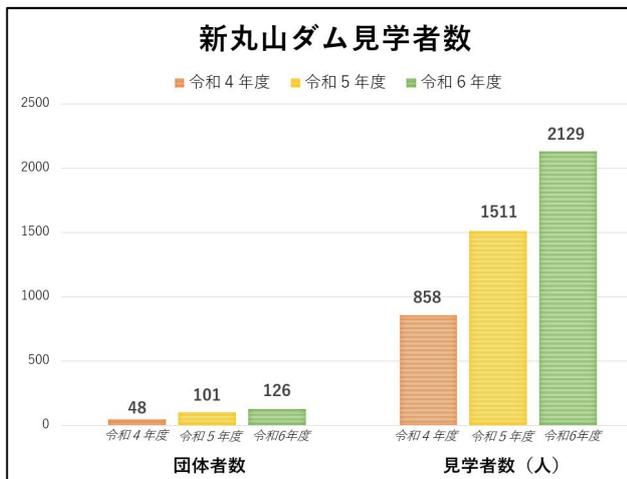


図-10 新丸山ダム見学者数

## (2) 自然アクティビティプロジェクト

自然アクティビティプロジェクトでは，地域固有の自然や地形，施設を活かし，楽しく心身ともにリフレッシュできることを目的としている。

新丸山ダム建設事業に伴い整備した，付替国道418号の「新旅足橋」を利用した高さ215mの日本一高いバンジージャンプが令和2年8月にオープンした（図-11）。峡谷の四季折々の景観が楽しめる観光スポットでもあり，国内外から多くの方が訪れる場所である。

また，今後はプロジェクトの一つとして丸山ダムの流木の活用も考えている（図-12）。丸山ダム管理支所からの提案として，流木アートイベントなど地域と連携し，地域に貢献できる「定期イベント」を検討中である。流木の活用を進めるとともに流木と環境問題，ゴミ問題及び流域治水について考えるきっかけになればと考えている。



図-11 付替国道418号「新旅足橋」のバンジージャンプ



図-12 流木と活用事例

## (3) 防災プロジェクト

防災プロジェクトは，丸山ダムを始め，数多くのダムがあるこの地域で，ダムを知り，ダムを身近に感じ「防災・減災」について多くの人知ってもらうことを目指したプロジェクトである。

地元の小学校の学校教育で防災教育を取り入れてもらい，実際に丸山ダムと新丸山ダムの建設現場をみることで，身近に感じてもらう取り組みを行っている（図-13）。

また，令和6年度は八百津町の社会科副読本の単元の

一部を制作支援した（図-14）．水の循環についてや風水害についての単元の支援を行い、新丸山ダムについても記載され、防災・減災は勿論、子供たちがダムについて知る機会ができた．そして、当事務所と教育委員会の新たな連携、繋がり場の場となった．



図-13 地元の小学生が現場見学に訪れた様子



図-14 制作支援した八百津町副読本<sup>5)</sup>

## 6. 新丸山ダム完成と地域振興の展開

現在まで、様々な地域振興の取り組みを行ってきた．これまでの経験を踏まえた今後の取り組み、展開について以下のとおり述べる．

### (1) 今後の取り組み

SNS等を活用した情報発信によるダム周辺地域への来訪者増加、経済の好循環を目的として情報発信プロジェクトを実施している．令和5年度には、協議会のロゴマークの選定を行い、ロゴマークの活用による更なる新丸山ダム建設事業及びダム周辺地域の認知度向上に取り組んでいる．

しかし、これまで述べてきたように新丸山ダム及びダム周辺地域には多くの魅力がある一方で、ダムや地域の文化等に興味を持ってくれる方々に情報が届かない現状

がある．現在は、作成したロゴマークをダム周辺地域のイベントで活用し、関係市町に暮らす方々に知ってもらえるようPRしている．

また、令和6年度に開催した協議会の意見交換では、下流域を含めた防災教育の普及など防災を通じた上下流交流を進めていきたい等の意見が出された．防災やダム周辺地域の魅力をダム周辺地域にとどまらず、木曾川流域に広めていくため今後もアクションプランの充実を図っていく必要がある．新丸山ダムより下流の濃尾平野、人口が集中する地域で新丸山ダム及びダム周辺地域のPRを行い、今まで届かなかった方々に魅力を知ってもらう取り組みを行っていく方針である．

### (2) 今後の展開

地域振興は、地元の思いが一番大きな力となる．どれだけダム周辺地域と新丸山ダム関係機関が良い関係を築けるかが大切である．そして、これからの地域振興は新丸山ダム建設の進捗とともに「Hop Step Jump」のStepへの土台を構築し、仕掛けづくりしていく必要がある．Jumpの最終地点は、ダム周辺地域が連携し地域の魅力、新丸山ダムの魅力を高め財産として磨いていくこと「新丸山ダムを生かした地域振興」を行っていくことである．新丸山ダム完成後のダム周辺地域が主となった持続的な地域振興に向け、今後も取り組んでいく方針である（図-15）．



図-15 今後の見通し

### 参考文献

- 1) 新丸山ダム工事事務所Webサイト：新丸山ダムの建設に向けて（パンフレット）  
[https://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/201\\_damunogaiyou/shinmaru\\_pamphlet.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/201_damunogaiyou/shinmaru_pamphlet.pdf)
- 2) 瑞浪市・恵那市・八百津町・御嵩町：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所データ
- 3) 新丸山ダム水源地域協議会：新丸山ダム周辺地域振興ビジョン（パンフレット）
- 4) 新丸山ダム工事事務所Webサイト：新丸山ダム水源地域観光MAP  
[https://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/205\\_Chiiki/main.html](https://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/205_Chiiki/main.html)
- 5) 八百津教育委員会：八百津町 小学校社会科副読本